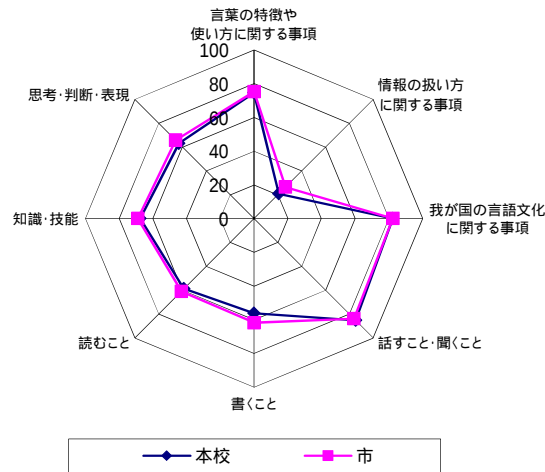


宇都宮市立晃宝小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.7	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	20.9	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	82.3	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	85.2	83.9	84.2
	書くこと	56.1	61.7	64.5
	読むこと	58.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	67.5	68.8	70.3
	思考・判断・表現	63.0	65.8	67.0

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

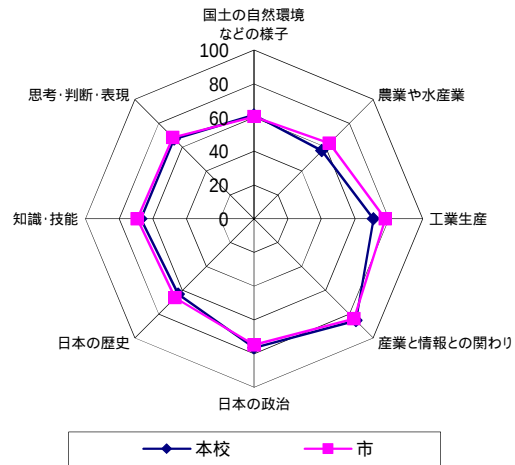
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、ほぼ市の平均値である。 ○漢字を読む問題は、市の平均正答率より高かった。 ○敬語について理解し、正しく使えるかについての問題は、市の平均正答率より高かった。 ●漢字を書く問題は市の平均正答率より低かった。 ●段落の意味を理解し、2段落構成で文を書くことに に課題があった。	・新出漢字の字形に注意しながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き朝の学習や家庭学習で取り組めるようにする。また、文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら漢字を正しく使ったり、学習した漢字を意識して使ったりすることが習慣付けられるよう全ての教科の授業において指導していく。 ・段落については、作文指導の際に段落の役割を理解させ、慣れさせていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均値より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題の平均正答率は、市の平均正答率より低かった。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題の平均正答率は、市の平均正答率より低かった。	・いくつかの資料の中から必要な情報が書かれている資料を選ぶことができるよう、授業の中で、「要約してまとめる力」や「物事を比較・関連付けて考える力」の育成を目指した学習活動を行っていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、ほぼ市の平均値である。 ○漢字や語句の由来についての問題の平均正答率は、ほぼ市の平均正答率であり、理解している。	・新出漢字や言葉の学習をする際には、インターネットを使って漢字の成り立ちや部首・つくりの持つ意味にもふれさせる場面を増やしていく。また、部首・つくりの学習で、テーマを決めて漢字を集める活動等を取り入れ、引き続き児童が漢字に興味・関心をもって学べるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均値より高い。 ○話すこと・聞くことに関するすべての問題の平均正答率が、市の平均正答率より高かった。	・意見や提案など自分の考えを話したり、必要なことを聞き取ったりする活動や自分の立場を明らかにして考えを伝え合う活動を、各教科の授業において発達段階に応じた言語活動となるよう引き続き指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均値より低い。 ●書くことに関するすべての問題の平均正答率が、市の平均正答率より低かった。	・指定された段落構成で文章を書くことができるよう、教科書を活用して段落をつくることの意義や目的を確認したり、文章を視写する活動を取り入れたりしながら、段落の「型」を理解させる。基本的な構成に沿ってまとまりのある文章を書く技能を身に付けさせることができるよう、一人一人の子どもの実態に応じたきめ細やかな支援・指導を行っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均値より低い。 ○物語文の内容を読み取る問題で、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題の平均正答率は、市の平均正答率より高かった。 ○文章全体の構成を捉えることができている。 ●登場人物の心情や様子に関する問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。	・文学的な文章の指導では、登場人物の会話や行動から登場人物像をとらえたり、文章表現から想像力を働かせて読み取ったりする指導を丁寧に行い、読解力をさらにつけるようにする。 ・文学的文章だけでなく、伝記や随筆等、幅広い分野の本に親しませ、共感したり取り入れたい所などを中心に、自分の考えをもって読ませるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.5	60.5	65.8
	農業や水産業	57.0	63.3	66.0
	工業生産	70.9	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	85.4	83.8	76.6
	日本の政治	76.6	74.9	74.1
	日本の歴史	63.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	67.1	69.3	71.4
	思考・判断・表現	66.9	68.1	66.4

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

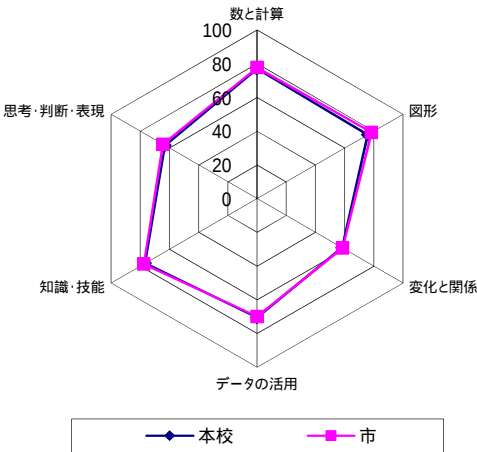
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率はほぼ市の平均と同じである。 ○ 太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題では、正答率60.8%と、市を5.4ポイント上回った。 ○ 森林の間伐について問う問題では、正答率91.1%と市を8.4ポイント上回った。 ● 日本周辺の海洋名を問う問題では、正答率68.4%と市を5.9ポイント下回った。	・国名や海洋名、周辺の国や日本の領土の学習では、用語を押さえるだけでなく、地図帳や資料集を積極的に活用していく。 ・公害についての問題にやや課題があった。知識を身に付ける際に、単に言葉のみを覚えさせるのではなく、場所などを地図や資料集を使って確認することで、活用できる知識として身に付けられるようにしていく。 ・学習内容と日常生活を結び付け、自分事として捉えながら考えを表現する活動を今後も継続していく。
農業や水産業	平均正答率は市の平均よりも低い。 ● 日本の主な食料の自給率についての理解を問う問題では、正答率26.6%と、市を9.7ポイント下回った。 ● 米の品質を高める工夫についての理解を問う問題では、正答率78.5%と市を7.9ポイント下回った。	・資料の読み取りをもとに考え、身に付けた知識を生かして選択する問題に課題が見られた。学んだことを白地図上に表したり、表やグラフを実際に作成したりする活動を通して、知識を表現する技能を身に付けさせていく。 ・基本的な用語については、もう一度振り返って確認し、正しく身に付けることで、今後の学習に生かせるようにする。
工業生産	平均正答率は市の平均よりも低い。 ○ 自動車の製造工程について理解を問う問題では、正答率94.9%と市を2ポイント上回った。 ● 日本の主な輸出品・輸入品について理解を問う問題では、正答率39.2%と市を17.3ポイント下回った。	・日本の輸出入についての知識を問う問題に課題が見られた。今後は、単元ごとの重要語句の確認やミニテストの継続的な実施などを行い、基礎基本の定着を図っていく。 ・知識をもとに、資料を読み取り、そこから何が見えてくるのかを考えさせるだけでなく、見えてきた事実が既習の知識とどう結び付くのかを考えさせることで、資料活用の技能を高めていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は市の平均よりもやや高い。 ○ 情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率94.9%と、市を2ポイント上回った。 ○ 産業における情報活用の現状について考える問題では、正答率75.9%と、市を1.1ポイント上回った。	・情報化がますます進展していく中で、情報の発信と受信の特徴を捉えながら、それぞれの良さや課題に気付かせるような指導を今後も継続していく。 ・資料に書かれている情報を正しく読み取り、そこからどんなことが言えるのか考えさせていくことで、資料活用の技能を今後も高めていく。
日本の政治	平均正答率は市の平均よりもやや高い。 ○ 基本的な人権の尊重の基本的な考え方について理解を問う問題では、正答率86.1%と、市を4.8ポイント上回った。 ○ 租税の役割について資料を読み取る問題では、正答率78.5%と市を7.0ポイント上回った。 ● 平和主義の基本的な考え方について理解を問う問題では、正答率89.9%と、市を3.7ポイント下回った。	・基本的人権の尊重の基本的な考え方について理解を問う問題では、よく定着が図られていた。今後、日本国憲法の三つの原則についてもよく押さえ、それぞれの言葉と自分たちの生活との関連も考えさせていきたい。 ・平和主義の基本的な考え方について、戦争や平和について考えさせることで基本的な知識を確実に身に付けるとともに、写真資料や図表を活用し、実感的な理解を図る。
日本の歴史	平均正答率は市の平均よりもやや低い。 ○ 豊臣秀吉の業績について理解を問う問題では、正答率70.9%と市を3.3ポイント上回った。 ● 大和朝廷によるというつについて理解を問う問題では、正答率54.4%と、市を8.2ポイント下回った。 ● 鎌倉幕府の政治について理解を問う問題では、正答率65.8%と市を6.6ポイント下回った。	・歴史用語を正しく身に付けるために、教科書をもう一度復習したり、練習問題を解いたりすることで、基礎・基本の定着を確実に図る。 ・それぞれの時代の特徴を理解し、自分の言葉で表現できるようになるためには、歴史を大観する力が必要になる。そのために、それぞれの時代ごとの特徴をまとめるだけでなく、大きな歴史の流れを捉え、それぞれの時代のつながり、共通点や相違点を考察し、現代の私たちの生活とも比較することでその時代がもつ特色や歴史的な意味を浮かび上がらせ、時代を適切に捉える目を育てていく。

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.1	77.7	78.6
	図形	75.8	78.4	74.4
	変化と関係	58.2	58.7	53.0
	データの活用	70.5	69.9	57.2
観点別	知識・技能	76.6	77.5	74.0
	思考・判断・表現	63.1	64.5	58.4

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

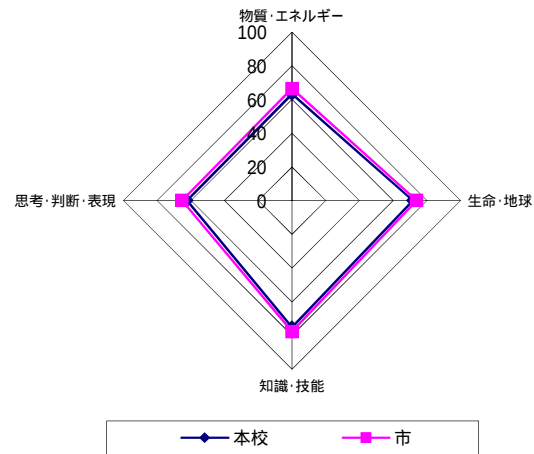
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、ほぼ市の平均値である。 ○問題場面を捉える際のテープ図や数直線に、低学年から発達段階に合わせて指導し定着させてきた成果もあり、図を使って小数の乗法の文章問題に合った式を立式する問題は90%を超え、市の平均を3.9ポイント上回った。 ●分数の計算では、異分母分数の減法の計算問題の正答率が、市の平均を14.7ポイント下回っている。	・正しく計算できるようにするために、図や数直線などを用いて自分の言葉で説明する活動を取り入れる等、授業の中で丁寧に取り組ませ理解させるようにする。 ・家庭学習や朝の学習などに繰り返し練習問題に取り組ませしていく。 ・自分の間違いについて解答の訂正だけでなく、原因や対策についても考察できるようにする。
図形	平均正答率は市の平均よりも低い。 ○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を理解しているかの問題は、90%を超え市の平均を3.5ポイント上回った。 ●底面積と高さから角柱の体積を求める問題は、市の平均を6.6ポイント下回った。	・図形は具体的な操作活動を取り入れたり、友達と考えを交流したりしながら、イメージ豊かに捉えられるようにしていく。 ・底面積の公式について再度確認し、体積と高さが比例関係にあることを捉え、どんな角柱や円柱も底面積×高さで求められることを繰り返し学習させる。
変化と関係	平均正答率は、ほぼ市の平均値である。 ○百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題では、市の平均を6.5ポイント上回った。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題は、市の平均を8.7ポイント下回った。	・速さなど単位量当たりの大きさの学習では、生活に関わる場面に着目させ、児童自らが問題を発見して課題設定し、解決できるよう指導していく。 ・割合の学習では、他教科との関連性を図ったり、日常生活の場面などを題材とした問題等に取り組ませたりし、割合や百分率が日常生活に活用できるよさを実感できるようにする。
データの活用	平均正答率は市の平均よりも高い。 ○度数分布表を完成させる問題の正答率は、市の平均を5ポイント上回った。 ○表から平均を求める問題は、90%に近い正答率で、市の平均を2.8ポイント上回った。 ●平均から全体の量を推測する問題は、市の平均を1.1ポイント下回った。	・「平均・データの見方」の学習では、身近な教材に着目させ、必要性を感じながら統計的な問題解決の方法を学んでいけるように課題の設定を工夫し、主体的に学習できるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第 6 学年【理科】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.2	66.5	66.3
	生命・地球	71.7	74.0	72.6
観点別	知識・技能	75.1	77.6	78.2
	思考・判断・表現	62.3	65.3	63.4

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の正答率と比べて低い。 ○「水溶液の性質」の問題の正答率では、市の平均よりほぼ同じか高い結果となった。実験方法を考えさせたり、さらに深く課題を追究させたりしたことが成果につながったと考えられる。 ●「ふりこのきまり」では、振れ幅と周期の問題の正答率は、市の平均より低く、課題があった。	・実験器具や薬品の扱い方について、充分振り返りをしていく。 ・学習計画をより充分立て、課題を自分で追及する時間を十分にとり、実験・観察の過程においてめあてを意識した活動に取り組ませ、考察では、一つ一つの結果を整理して考察を行うことにより問題解決の力を育成できるような授業を展開していく。
生命・地球	平均正答率は、市の正答率と比べて低い。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」では、基礎問題、活用問題の正答率は、ともに市の平均を下回るかほぼ同じではあったが、全国平均と比べるとやや上回った。観測を広いところでじっくり取り組ませたことが結果につながったと考えられる。 ●「植物のからだのつくりとはたらき」の問題の正答率は、市の平均より低く、課題があった。	・実験や観察を行う際には、実演にあわせて、デジタル教科書の動画などで器具の使い方を確認させ、器具を安全に正しく使えるように指導していくとともに、できるだけ資料だけでなく仮想の実験でも体験を重視していく。 ・授業や単元終わりの振り返りでは、充分時間を取り、基礎的内容の把握を指導していく。

宇都宮市立晃宝小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基本的な学習習慣の定着のための指導の徹底 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実践に関する研究 ○基礎・基本の定着	○学習用具の確実な準備や学習のきまり、発表の仕方、話を聞く態度などの学習態度や学習技能を育てる指導を学校全体で取り組んでいる。 ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の改善を学校全体で研究している。 ○単元のプレテストやまとめテストで児童一人一人の実態を把握し、個に応じた支援を行っている。	○6学年のアンケート結果「授業の始まりには席についている。」「授業に必要な学習用具は必ず持ってきている。」「先生や友だちの話を、最後まできちんと聞いている。」の設問での肯定的回答はいずれも9割を超えており基本的な学習習慣は定着している。 ○「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」について、肯定割合が7.6%で市を6.8ポイント上回った。「物事をいろいろな視点や立場から考えている。」について、85.9%で市を5ポイント上回った。

国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○学年でパワーアップシートや宮っ子ステップアップシート、A Iドリル等を授業や朝の学習、家庭への啓発に努めながら家庭学習で活用していく。
 ○授業でのI C T機器の効果的な活用について研修を推進する。